

令和 5 年 3 月 30 日 発行

# あさかの里だより 92 号

発行：社会福祉法人郡山社会事業協会 あさかの里 E-mail [asakanosato@asksato.or.jp](mailto:asakanosato@asksato.or.jp)

〒963-8862 福島県郡山市菜根 3 丁目 15 番 3 TEL 024-939-3401 FAX 024-939-3491



Spring has come.

春が来た！

## ～CONTENTS～

- P.2 キャンパスの閉所      P.3 コロナ対応状況／利用者アンケートの結果  
P.4 全体行事 BBQ クリスマス忘年会  
P.5 AED 研修 / イラスト投稿コーナー  
P.6 暁紫舎トイレ改修 / スタップリレーコラム



## 就労継続支援事業所キャンバスの閉所

あさかの里キャンバスは長年地域の皆様に支えられて営業してまいりましたが、近年の物価の上昇、利用者の減少等様々な事情により、令和5年2月28日にやむなく閉所いたしました。

軽食喫茶とお弁当のお店として開設したので、宅配弁当専用としては機能的に非常に狭く、それに反してお客様の数は増え続け、当初は「うれしい悲鳴」でしたが、年々と、多忙さだけが際立つ結果となっていき、『誰のため、何のための場所であるのか』という本来の目的が果たせなくなってしまったのではないかと、言う結論にいたりました。多くのお客様から「続けて・なくなると困る」と言うお声をいただきましたが、断腸の思いで閉所することとなりました。

キャンバスは、お弁当の調理と配達サービスを行う作業所として平成12年に開所しました。その名前には『真っ白いキャンバスに絵を描くように、それぞれの生き方や人生をいろいろな色で自由に描いていきたい』という気持ちが込められています。あさかの里の利用者の一人が名付けてくれました。開設にあたり、多くの皆様からのあたたかいご寄付も賜り、改装工事や厨房機器の設置に使わせていただきました。

キャンバスはその名が示す通り、お弁当を通して多くのメンバー、スタッフ、そしてお客様の日々の生活にさやかな色彩を加えてくれたように思います。今まで働いてきたメンバー、スタッフは来年度からまた新たな場でそれぞれの持ち味を生かして日々を送っていく事となります。キャンバスのお弁当を愛してくださった皆様に心から感謝を申し上げますと共に、ご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

ありがとうございました。



立ち上げ直前の外観です。



たくさんのお客様から  
お手紙を頂きました。  
心から御礼申し上げます。

## あさかの里 コロナウイルス対応の状況

あさかの里はコロナウイルス発生当時から、福祉施設を対象とした感染防止のための講習に参加し、重症化や集団感染を抑えるために様々な対策を講じてきました。現在では『With コロナ』という新たな生活が示されて、ひとりひとりが工夫し上手く付き合いながら生きていくような流れになりましたが、発生当初は誰もが困惑しながら日々を過ごされていたと思います。政府が3月13日からマスクの着用は屋内・屋外問わず個人の判断に委ねる方針を決定したことをはじめ、世間は新たな生活様式に舵を切り始めていると感じています。そして私たちもその流れを意識し良い部分を取り入れながら、ひとつひとつの課題に議論を重ねて自分たちに合った生き方を模索していかなければならないと考えています。

さてあさかの里では毎日の検温、マスク着用、こまめな換気、手指や備品の消毒を徹底し、県外への外出時には、事前に検討を重ねたうえで必要に応じて帰宅時のPCR検査のご協力をお願いしてまいりました。一人一人のご理解とご協力の甲斐があって、感染を最小限に抑え込めていると感じています。

当事業所における感染確認後の対応としましては、行政・関係機関と連絡を取り合い、感染が拡大しないように関わる人数を最小限に抑えながら支援を行なってきました。当時はそれが最善手であると信じて行動していましたが、今振り返ればいくつかの課題もありました。感染防止のための物資を購入し、適切な使い方も講習で学びましたが、実際の現場においては、利用者への対応ばかりが先走り、物資を十分に活用出来ませんでした。

5月からコロナウイルスは季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げられますが、関係各機関の対応なども参考にしつつ、引き続き感染拡大防止に努めていきたいと考えております。

## あさかの里 利用者アンケートの実施と結果報告

あさかの里では年末に、利用者に向けて作業所やグループホームに関するアンケートを実施いたしました。そちらの結果をご報告したいと思います。なお、回答率は86%となりました。



作業所の満足度において、不満を抱いている割合は11%となった。理由としては『工賃が少ない』という意見が多かった。さらに、「仕事が忙しい」、「出来る仕事をしたい」という声もあった。忙しいことが工賃に反映されていないということもあるかもしれない。また、「通うのが大変」という意見もあった。グループホームでも「医療機関や行政機関へ行くのが大変」という声もあり、送迎は今後の課題と言える。また、一般就労先を斡旋してほしいとの声もあった。あさかの里が就労に向けて積極的に支援していないことは事実であり、まず病状や生活の安定が第一と考えている。その上で、就労に向けて具体的に進めていく場合は、相談を重ねて、更に就労支援を積極的に行っている他事業所への移行等も提案してきた。アンケートの結果を踏まえて、利用者それぞれの就職についての希望などをきめ細かく確認し、その後の支援について検討していく必要があると考えられる。

グループホームにおいては「プライバシーが保たれている／安心してくつろげる」という声が多いが、「プライバシーがないと感じる／安心してくつろげないときがある」という相反する回答もある。複数で共同生活のところとワンルーム形式のところなどでの、グループホームの環境的な違いによるものも大きいと考えられる。

また休日の食事提供（してほしい）という意見もあった。買い物でおかずを何を買っていいのかわからない、という書き込みもあった。休日の食事提供については、検討課題といえる。

この他にも多くの貴重なご意見がありました。まだまだ多くの検討課題があると痛感しております。

今後の更なる支援の質の向上に繋げていきたいと考えております。

この度のアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

# バーベキュー大会



～令和4年11月18日(金)～

四季の里 郡山緑水苑にて



芋煮  
おにぎり🍙  
飲み物付き

みんなでワイワイ  
言いながらお腹いっぱい  
食べて・・・

お天気もいいので  
紅葉した緑水苑を  
散策しました。



赤い羽根共同募金  
募金もお願いしました

# クリスマスゲーム大会

～令和4年12月15日(木)～



障害者福祉センターにて



じゃんけん大会  
○×クイズ  
ビンゴゲーム

ケーキ  
お寿司  
飲み物



おみやげ付き



あさかの里の総理も参加  
お二人の漫才もウケて最高！！



毎年恒例の全体行事  
楽しい時間を過ごしました

あさかの里では、メンバースタッフともに感染防止対策を十分にして  
協力しながら実施しています。



## AED 講習会



2023年1月20日(金)、1月25日(水)あさかの里事務所にてAED講習会が行われました。

救命救急の重要性について、練習用AEDとマネキンを使つての救命救急の手順や、AEDの操作方法を学びました。



## イラスト投稿 コーナー

くま (冠くみ) さん より



『ああ、心に詩が咲く』  
嬉しいな 楽しいな  
そんな気持ちが胸を撫でたら  
息を吸って 声に出して  
歌いたしてみよう  
ご覧、君の胸の底 叩いたトキメキが  
風に乗って 空に溶けて  
Ah、詩になっていくよ  
ビルに 電線に アスファルトの踏まれた草に  
花を咲かせていくよ  
もし君の胸の扉を トキメキが叩いたのなら  
さあ、声に出してみよう  
きっと素敵な詩が咲くから

コラム募集中!!  
お近くのスタッフまで

## ～～寄付・協賛の御礼～～

サントリービバレッジソリューション(株)

(株)伊藤園

笹島菓子食品(株)

敬称略 ご協賛・ご提供ありがとうございました。

## ～暁紫舎 トイレリフォーム～



中央競馬馬主社会福祉財団 様より助成金をいただきあさかの里暁紫舎のトイレのリフォームを行いました。

### 利用者さんの声

- 新しくなって快適
- 2 つになったので、待たずに入れるようになった
- 使いやすい

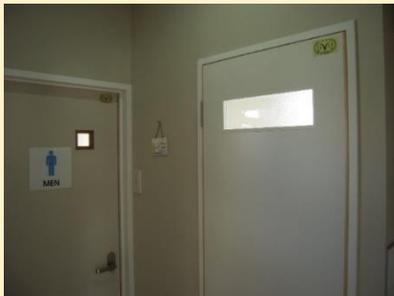
このたびは、助成金をいただきありがとうございました。

トイレが2 つに増えたことで、男女別に行うことができました。待ち時間も無くなり快適に使用しています。

今後も大切にに使わせていただきます。



Before



After

## スタッフ リレーコラム

新型コロナウイルスが流行して以来、様々なイベントが軒並み中止になってしまいました。その中でも特に一番残念だったのが「ROCK IN JAPAN FES.」の中止でした。「ROCK IN JAPAN FES.」通称「ロッキン」は毎年夏に行われる国内最大級の音楽フェスで、混雑がとても嫌いな自分が好んで参加する数少ないイベントです。

ロッキンをはじめ様々な音楽フェスへ行くことができなくなってからは出不精に拍車がかかり、休日は丸1日ゲームをして終わるという生活が定番化していきました。

しかし少し前から友人とキャンプへ行くようになり最低でも月に1回は、自然と触れ合う時間ができました。外へ出ないことをかなり心配されていたのか母と妹にこの話をしたところ「本当に良かったね～」と口を揃えて言われました。その時は大げさだなと思いましたが、今思い返してみると実家にいた頃もほとんど外出していなかった気がします。

キャンプを始めてから多少は健康的な休日を過ごすようになったのですが、今度はキャンプ道具に散財するようになってしまいました。毎日のように届く宅配物に呆れた妻から何ともいえない顔で見られる日がしばらく続きました。幸い最近になってようやく物欲は落ち着きましたか…

近い将来、子どもがもう少し大きくなったら一緒にキャンプやフェスなどいろいろな所へ出かけてたくさんの思い出を作ってあげたいです。そして自分みたいに周りに心配をかけないような元気で活発な子になってくれればなと思っています。

山内 誠也

～次回は石黒貴之さんです～

